

福井の幕末明治 歴史秘話

<第25号>

平成29年3月22日発行

経世済民の男～由利公正～

『経世済民の男』（けいせいさいみんのおとこ）は、NHKで平成27年8月～9月に放送された三部作のドラマです。明治から昭和にかけて日本を代表する経済人3名（第一部では首相や大蔵大臣等を歴任した高橋是清、第二部では阪急東宝グループを創設した小林一三、第三部では「電力王」や「電力の鬼」と呼ばれた松永安左エ門）が描かれました。



由利公正

「経済」という言葉は、そもそも中国の古典の中にある「経世済民（けいせいさいみん）」という言葉が起源ですが、これは「世を経（おさ）め、民を済（すく）う」ことを意味しています。つまり、民を救うために様々な公的対策を行わんとすることが「経済」なのです。

歴史家の井沢元彦氏は、昨年、福井市内で開催された歴史講演会の中で、“徳川幕府には、経済を政治と融合させる視点が欠けていた。貨幣経済への対応が進まず、財政が弱体化し、幕府終焉の要因の一つとなった。”と指摘しています。幕府は、米本位制度をとっており、農民が収める税は米でした。農業重視の政策は米の生産増を実現しましたが、市中に出回る米が増え、価格が下落。税収が目減りし、財政難となっていきます。また、朱子学が重んじられ、商売を卑しいとする考え方は、商業政策の実施を阻んでいました。

その一方で、井沢氏は、その考え方に囚われなかった人物として、重商主義政策で幕政改革を行った幕府老中田沼意次を例に挙げますが、福井藩の由利公正も、経済を通し、政治を民のためのものにしようとした人物として、「経世済民の男」と言えるかもしれません。安政5（1858）年、由利公正は、民を富ませることこそ、武士の本分と考え、特産品の海外輸出に乗り出していきました。由利は、“物産を興すには、民に楽しみをつけなければ動かない”と考え、生糸など特産品の生産から販売までを管理する物産総会所を設け、その責任者に藩内各地の農民や商人を当たらせ、利益の一部を分配したといえます。商人の一人は、武士が商売に手を出すことを痛烈に批判しましたが、由利は、商人達と一緒にゴロンと床に寝転がり、目線を合わせ、国の将来を憂いながら協力を求めたといえます。

明治新政府で由利公正は、いわゆる大蔵大臣として、初の全国流通紙幣、「太政官札」の発行を推し進めるなど、国の経済の舵取りを任されるようになります。由利がいなければ、戦費がショートし、新政府の東征が早期に終結せず、商人や農民が疲弊し、近代化の道も遠のいたかもしれません。経済の観点から日本の近代化の礎を築いた男、由利公正。「経世済民の男」は由利公正の呼び名にふさわしいと言えるのではないのでしょうか。 <参考資料> 子爵由利公正伝

～幕末ふくい歴史紀行～ [高知城歴史博物館]

・国宝や重要文化財を含む約6万7千点の土佐藩主山内家伝来の貴重な資料を中心に、土佐藩・高知県ゆかりの歴史資料を収蔵・展示しています。坂本龍馬が由利公正の新政府への出仕を懇願した新発見の直筆書状が、4月17日まで公開されています。

【住所】高知県高知市追手筋2-7-5（JR高知駅から路面電車乗車。高知城前下車 徒歩3分）



高知城歴史博物館

★お知らせ 越前時代行列に「福井幕末維新隊」登場！

- ・平成29年4月15日（土）、福井市内中心部で開催。13時半に福井城址を出発し、足羽河原まで練り歩きます。
- ・平成30年に開催する「幕末明治福井150年博」への県民の理解・関心を深めてもらうため、福井幕末維新隊の主役に、由利公正役としてタレントのバックン、橋本左内役として相方のマックンを起用。ぜひ、お越しください。

【お問合せ先】ふくい春まつり実行委員会 0776-20-5346